

# 本 本 な な こん こん あん あん

真 守 津

秋人をめぐる人々のはなしからはじまる  
書物である。

「死刑囚と盲婦人と花」「あの時から」  
など、島秋人のことを読まれた方々には、  
親しみ深い文章である。島秋人は獄  
中でキリスト教の信仰をもつようにな  
り、また歌人となって、窪田空穂に見出  
され、処刑後に出版された歌集「遺愛  
集」（東京美術出版）が出版されたほど  
の人である。

同じく死刑囚の正田昭のことなどを含  
めて、鎮魂（たましずめ）と題して、著  
者がその人たちとかかわりをもったこ  
ろから出発した「少年院に花を植える運  
動」など著者自身の体験や感想が語られ  
る。非行少年という普通人とは異なっ  
た人種であるかのように思われがちであ  
るが、もっとあたりまえの人間として接  
してくれる人がたくさんいたら、非行に  
ならないですんだであろうと思わせられ  
る。

著者はさらに、家庭裁判所の判事とし  
て、少年法が改悪されようとしている現  
状を述べ、「政治・行政も教育や青少年  
対策も、天を畏れ人間を愛惜する心に還  
って出直すこと」がなければ、本当の世  
の中にならないことを指摘されて、最初  
の部分が終わる。

次の部分は「出会い」と題して、癩者  
をはじめ、いろいろの人との出会いにお  
いて「燃ゆる眼」について語られる。さ  
らに「人間の復興」という部分があり、  
最後に著者の俳句を集めた「春夏秋冬」  
がついている。

この書物には「自然と人生の事実」学  
ぶ」という副題がついているように、自  
然と人生の前に、人が自らを低くして向  
かう態度が貫かれている。人間や自然  
を、人が自分の手で思うようにできると  
思うところに、現代の病根がある。幼児  
教育においても、同様であると思った。

## 「人間の復興」

森田 宗 一著

「人間の復興」（雷鳥社）と題して、

森田宗一氏の最近の論文を集めた本が出  
版された。私が直接おはなしをうかが  
い、また、この雑誌でも昭和四十年六月  
号に書いていただいて反響をよんだ、島

# 「北欧・東欧・西欧幼児 施設見学・旅行記」

松村 光子著

まるで自分が旅行をしているかのよう  
に、たのしくよむことのできる旅行記で  
ある。そしてまた、筆者の事物にふれる  
根本態度がよくあらわれていて教えられ  
る。「やっぱり……でした」「意外と……  
……ではなかった」というような先入意識  
をもたない態度。「決定づけた言葉や表  
現をさけて」「そこで新たに考える」と  
いう姿勢と著者はいわれる。それは幼児  
教育にとって、とてもたいせつなみかた  
だと思つた。しかもそれに徹することは  
むずかしいことである。著者はその態度  
に徹して、この旅行記を書かれ、しかも  
人間性の豊かさを思わせるユーモアと、  
詩的な観察をまじえて、各国のようすが  
目の前にあらわれてくる。私は今まで世

界旅行記をおもしろくよんだ経験がなかつたので、この旅行記ははじめての経験だった。各国の街の午前七時の風景はすばらしい描写である。日本の幼稚園の園長でもあり、保育者である著者の目からみた、各地の幼稚園、保育所の実際は、教科書からは得られないものを伝えてくれる。しかも心から子ども好きな人であることを、全篇をよんであらためて知らされた。

実は、この書物のことを知つたのは、十二月二十三日に、この著者の同級生であつた赤間峰子さんとはなしをしているときであつた。赤間さんは、こんどから「幼児の教育」誌の編集業務をしてくださる方である。その翌朝未明に、著者は自宅の焼失とともに亡くなられた。その日に私はこの書物をいただいできて、一行一行読みそのことを考えつづけた。いま私はできるだけ客観的にこの書物を紹介しようといつてゐる。

この旅行記は、客観的な記録であろうか。著者が最初からきめた見方をもつていないという点で客観的といつてよいと思ふ。自己を透明な鏡のようにして、しかも強い好奇心をもつて、新しい事物を見ておられる。そこに生まれた旅行記は、この著者でなくては書けないものである。この人の眼と筆によつて一貫している。

その日の朝早く、私は焼けた柱をみつめて立っていた。細い月が真黒な夜空に光のかげをつくつていた。

夫君である松村康平氏（そのとき、大  
学で仕事をしておられた）はいわれた。  
外に出ようと思えば出られたのです。  
この著者には、幼児教育の面で、これ  
からたくさんのお仕事をしていただきたか  
つたことであらためて思う。人はまだたく  
さんのことができるときに死ぬ。たくさん  
残して死ぬほど、私は、それは神が必要  
とされて召された証拠であると思つた。